

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

埼玉県 鴻巣市

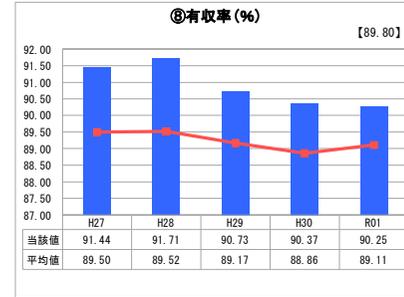
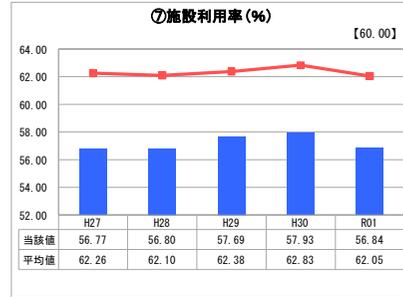
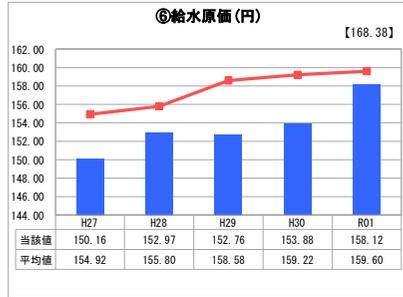
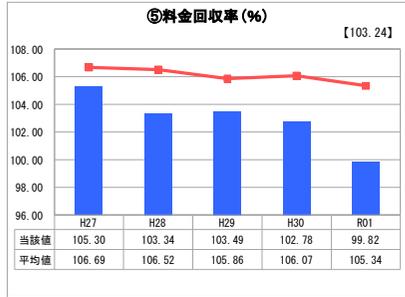
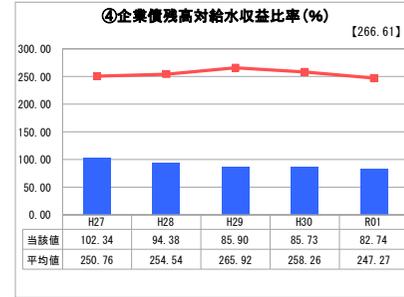
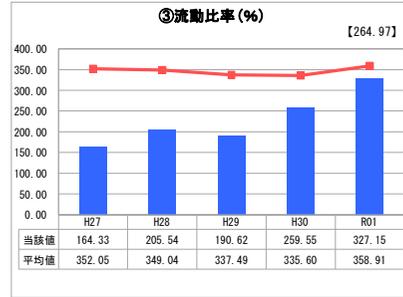
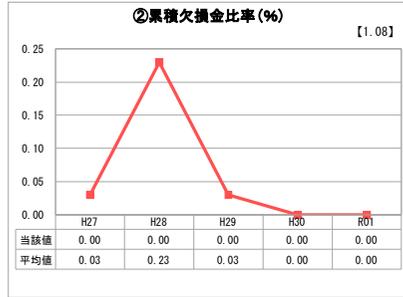
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	86.70	99.94	3,058	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
118,395	67.44	1,755.56
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
118,104	62.44	1,891.48

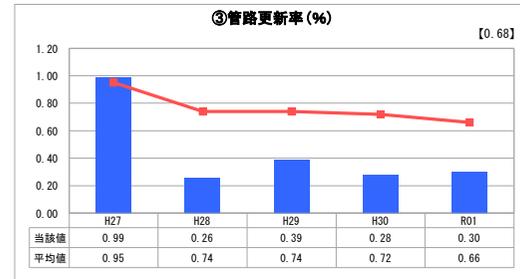
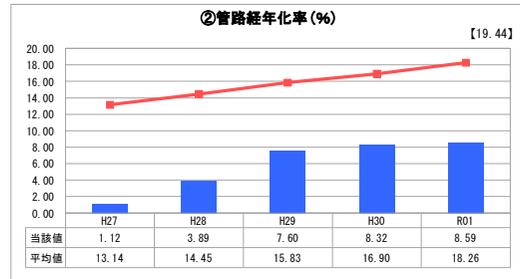
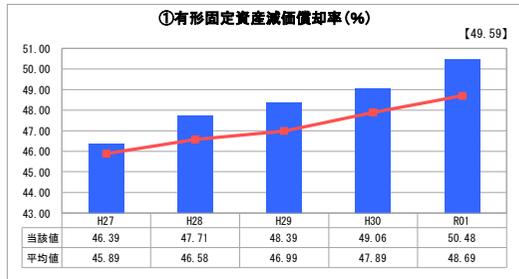
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を超え収支は黒字となっておりますが、給水収益や加入金等の収益の減少や漏水対応による修繕費が増加したことにより、前年度から減少となりました。  
 ②累積欠損金比率は長期にわたって0%であり、本市の水道事業は安定した運営ができていますと考えられます。  
 ③流動比率は例年100%を大きく上回っており、短期的な債務に対する支払能力を有しています。  
 ④企業債残高対給水収益比率は企業債の発行を抑制してきた時期があったことから現在でも低い水準となっています。  
 ⑤料金回収率は、漏水等の対応による修繕費が増加したことにより100%を下回りました。今後も施設の老朽化に伴う修繕費等維持管理費の増加が見込まれますが、収益状況の範囲内での実施検討を進めていきます。  
 ⑥給水原価は類似団体より低い値で推移しておりますが、有収水量の減少及び経常費用の増加により前年度から4.24円上昇しました。今後も人口減少に伴う水需要の減少が見込まれるため、適正な維持管理や効率化による費用の削減に努めます。  
 ⑦施設利用率は類似団体を大きく下回っており、ダウンサイジングなど施設能力の適正化について、今後検討していく必要があります。  
 ⑧有収率は類似団体を上回り、90%を超える水準となっております。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は類似団体より、高い値となっております。  
 ②管路経年率は類似団体より低い値ではありますが、増加傾向にあります。  
 ③管路更新率については、平成27年度は石綿管の布設替えを進めたことから更新率が高くなっていますが、平成28年度以降は大きく減少しています。管路経年率は類似団体より低い値となっておりますが、全体の減価償却率は高くなっており、浄水場施設・設備等の老朽化が進んでいると考えられます。令和元年度から2年度にかけては配水池耐震補強工事を行うなど、施設の耐震化・老朽化対策を実施しており、引き続き、耐用年数経過後も適正な維持管理による延命化を図るとともに、経営状況をふまえた上で適正な投資を進めていきます。

### 全体総括

経営の健全性・効率性に係る指標から、本市水道事業会計は概ね健全な状況にあると言えます。しかし、本年度は有収水量の減少や修繕費の増加により料金回収率が100%を下回りました。今後も人口減少や節水機器の普及により、給水収益の減少が見込まれ、さらに、管路や施設の老朽化は年々進行しているため事業費の増大は避けられなくなっています。そのため、計画的な更新を実施して事業費の抑制・平準化を図ることや、水需要に見合った施設規模の適正化、適切な維持管理による延命化など、効率的な運営が必要となります。水道事業を取り巻く環境は総じて厳しい状況ですが、今後も健全で安定した運営が継続できるよう、中長期的な視点に立ち、課題の解決に努めてまいります。